



第4次食育推進基本計画の重点課題等について

令和2年10月1日 令和2年度第2回食育推進評価専門委員会 長野県教育委員会 指導主事 高橋和子

キーワード: みんなのために

- 新しい生活様式における家庭環境のために (子ども食堂、家庭の食の充実)
- 地場産物の流通を整えるために (産直農産物流通のための体制づくり)
- ・小規模の町村の食育の目標設定のために (食育推進基本計画の作成の促進)
- 情報の活用のために(年代による情報収集方法の違い。SNS、TV等)
- 食育を学ぶ機会の確保のために (義務教育後の学び、大学等の教員養成課程における学び)

「食に関する実態調査」の考察から

https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/hokenko/hoken/kyushoku/shokuiku/torikumi/documents/r1syokukekka.pdf

- 1 調査の概要(長野県HP参照) 小学校5年生 中学校2年生 悉皆調査
- 2 朝食の喫食状況

朝食の喫食率		小学校5年生		中学校2年生	
		H28年度	R1年度	H28年度	R1年度
毎日食べる		90.7%	90.3%	87.4%	86.9%
食べない日がある		8.4%	9.3%	11.7%	12.8%
内訳	週に1~2日食べない日がある	6.6%	7.1%	8.1%	8.7%
	週に3~5日以上食べない日がある	1.4%	1.6%	2.4%	2.8%
	週に6日以上食べない	0.4%	0.6%	1.2%	1.3%
無回答		1.0%	0.4%	0.9%	0.4%

く結果・考察>

- ①小学生、中学生ともに3年毎の調査に変化は みられない。
- ②週に6日以上食べない 小5 0.6% 中2 1.3%
- ③調査開始時の平成16年度の結果 小5 85.3% 中2 76.5% と比較すると 「朝食」に重点を置いた食育を続けたことで 現在の水準が維持されているのではないか。

3 朝食を「食べない日がある」と答えた児童生徒の欠食理由(複数回答)

朝食を食べなかった理由	小学校5年生		中学校2年生	
新良で良べるがりに埋田 	H28年度	R1年度	H28年度	R1年度
時間がない	43.8%	42.4%	52.1%	48.3%
おなかがすいていなかった	39.3%	45.2%	39.1%	45.3%
体のぐあいが悪かった	7.0%	7.6%	7.4%	8.1%
用意が出来ていなかった ・食べるものがなかった	9.7%	11.8%	11.7%	11.0%
いつも食べない習慣	3.3%	5.5%	11.7%	12.1%
体重を気にして	3.0%	3.5%	2.2%	2.3%
休みの日に寝ていたかった	10.1%	13.4%	21.0%	24.8%
なんとなく食べたくなかった	16.8%	20.7%	22.3%	24.6%

家庭の習慣や環境を鑑みると、朝食欠食率0%の目標については、学校教育だけでは解決ができない。

く結果・考察>

- ・欠食理由は「時間がない」「お腹が空いていない」が2大要因である。
- 「用意が出来ていなかった・食べるものが なかった」が約1割以上いる。
- ・「週1~2日食べない」(小7.1%、中8.7%) 「休みの日に寝ていたかった」 (小 13.4%、中24.8%) から、休日の生活スタイルが朝食欠食率が 減少しない要因のひとつだと考えられる。

<課題>

・今後、家庭の習慣や環境について、どのように 対応していくのか。

提案:① どの年代の国民も、様々な団体も、それぞれに取り組む必要がある。

②「自分で調理できる力」をつける必要がある。

学校給食における地場産物の使用

= 学校給食の生きた教材として活用するため

<現状と課題>

- ・長野県食育推進計画(第3次)及び第3期食と農業農村計画 目標値 48% → 令和元年度 46.5%
- ・JAの広域合併等、地域内の農産物を配達する体制や人員の不足。
 - → 栄養教諭等が農家や直売所へ取りに行き、使用量を維持 している等。
- ・農家の高齢化による生産団体の解散。
- ・給食センター等の大型化による絶対量の不足。



地場産物の使用量を上げるには 学校給食現場だけでは、解決で きない。

北アルプス

松本

南信州

- 提案:①学校給食に流通させるための、生産者や関係機関との連携体制の構築
 - ②行政(農政部局)による地場産物生産者の組織づくり
 - ③生産者・生産者団体への支援



目標値のために支援体制を構築し、地場産物を生きた教材として「食育」に生かす。 栄養教諭は、食育の視点「感謝の心」「食文化」「食事の重要性(産業・流通・消費

SDGs)」につなぐ。

北信

給食時及び教科と連携して食育につなぐ

「全国の小中学校等における国産農畜水産物を活用した学校給食提供」 (農林水産省)

長野県HP https://www.pref.nagano.lg.jp/marketing/happyou/200715press.html

【食育教材】

【食育授業】特別活動の時間を活用

長野県では「安全・安心、そしておいしい」と paloacu牛肉が生産されています。

この長野県産牛肉をより広く知ってもら うために、新しいブランドとして「徳州ブ レミアム牛肉」が生まれました。

「どんなエサを、どんな時に食べたか」まで **管理している「信州あんしん感定養場」で** 一頭一頭製情を込めて育てられた牛の中 から、長野県独自のおいしさの軍等を満た した牛肉だけを、「側州プレミアム牛肉」と

では、どのようにして「側州プレミアム牛肉」 が聞きんの意卓に並ぶのか見ていきましょう!











出着されるまでの約2年間、毎日朝晩鮮をやり 病気やストレスがないか目を配り、愛情を込めて3 音ででいます。

県産食材「食べて応援」地域内消費推進事業 プレミアム牛肉用 食に関する指導案(例)

- ※ 食に関する指導の視点「感謝の心」を中核にして、食育教材を参考にした指導案(例)を 作成いたしました。
- ※ 信州サーモン・鯉・黄金シャモ・ニジマスについても食育教材が配布されますので、地域 の食材を学ぶ機会として(食に関する指導の視点:食文化等)実施してください。



○○小学校 ○学年

- 題材「命をいただく」
- おいしいお肉を (1) 多くの人の手によって私たちの食事が営まれていることを知り、私たちの食料となる食べも のには、生きていた命があることを感じることができる。
 - (2)食べ物や食べ物に係わる人へ、感謝の心を持って食事をしようとする気持ちを育てる。

T1 学級担任 T2

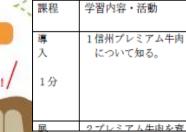
T1 「信州プレミア

て、栄養教諭から

を知らせる。 T2 本日の牛肉に

食に関する指導の視点 感謝の心

4 展開



共通の食育教材と指導案により、県内10校において 栄養教諭を中心とした、生産者と連携する「食育授業」 「命をいただく」を実施。(農政部・県教育委員会)

※信州サーモン・黄金シャモ・ニジマスについても 各学校で食育授業等を実施予定。





『懐州ブレミアム牛肉』の認定からお店にならぶまで

栄養教諭を中核として 学校で取組む食育



<現状>

1校 550人の児童生徒に対し、栄養教諭1名 16校 4000人の児童生徒に対し、栄養教諭2名 27校 11000人の児童生徒に対し、栄養教諭3名

提案:等しい食育を進めるための

体制づくりが必要。

給食時 給食指導

放送資料(給食センターだより)の活用

食育の関連教科

特別活動 家庭科(技術・家庭科) 体育科保健分野(保健体育科)等

養護教諭による

保健指導 保健だより

栄養教諭との連携 全校での食育授業の実施

放送資料の活用 資料提供 試食会 給食センター見学・試食

Minimum

単元により食育を意識しておこなう教科

理科・社会・生活科・総合的な学習 道徳科・国語等

- ・PTA試食会
- ・児童会・生徒会活動・校長講話 給食週間・読み聞かせ・講話

地域・外部との連携等

高校・CATV 地元新聞

市ホームページ

健康づくり関係課との連携 食育推進計画関連

親子料理教室

給食センター 見学・試食

市農林課・JA・食改・

小中学校の食育の最終目標

- 自己管理能力の育成
- ・健康で生きるための「食」を学び、実践につなげる

学校教育の様々な学習の中に「食育」があるように同じように「SDGs」の視点があります



【まとめ】

「withコロナ時代」に、今までと同じ内容だけではない目標の検討が必要。 みんなが「知識(知っていること)」を「行動(やってみよう)」につなげるために。